

# 野村 羊子



といっしょにつくる三鷹の会 ニュース no.73

## ◆ 夏の研修

### ■全国フェミニスト議員連盟

#### サマーセミナーin佐渡 (7/12-13)



「女性が働く 社会が変わる～いのち輝く地域と世界へ～」をテーマに、「持続可能な地域と社会」仲川純子（社団法人佐渡生きもの語り研究所職員）、「『日本海』から北東アジアの平和を考える」江口昌樹（敬和学園大学講師）、「女性が語る原発問題」桑原三恵（いのち・原発を考える新潟女性の会）らのセミナーとシンポジウム。翌日午前は、朱鷺との共生農地の現地視察。放鳥された野生(?)の朱鷺の飛翔する姿を3度目撃する幸運に恵まれた。午後は、佐渡の大地、日本海の成り立ちを学ぶジオパーク・ツアー。山全体が一つの岩(溶岩)などの驚異に触れる。



◆新潟市「生態系・生物多様性保全」「田んぼダム」視察 (7/11)；田んぼをピオトープにする試みと、田んぼの水量調節による浸水被害対策を伺う。カワニナはいても虫は繁殖しないという、自然の不思議さを改めて実感。

◆柏崎刈羽原発見学 (7/14)；事前に身分証明を提示して原発構内を見学。嵩上げ堤防等を案内される。ただし、原発建屋内は不可。その後、

元刈羽村議の案内で、周囲の活断層の実態を見学。油田地域があるなど



後ろに原発を望む荒浜にて

の地域、津波対策しても敷地内に断層があれば、再稼働は無理と実感！昼食時に巻町の住民運動のお話も伺う充実した見学ツアーだった。

9月1日(月) 本会議:市政に関する一般質問  
 2日(火) 本会議:市政に関する一般質問  
 3日(水) 本会議:一般質問、議案上程・説明  
 5日(金) 議会運営委員会  
 8日(月) 本会議:議案等審議・決算代表質疑  
 9日(火)～12日(金) 総務委員会、厚生委員会、文教委員会、まちづくり環境委員会(日程未定)  
 16日(火)～19日(金) 決算審査特別委員会  
 22日(火) 東京外状道路調査対策特別委員会  
 24日(水) 調布基地跡地利用対策特別委員会  
 25日(木) 議会運営委員会  
 30日(月) 本会議:決算審査特別委員会審査報告、議案等審議・請願陳情審議 閉会

■自治体議員研修「自治体決算の基本と実践～行政評価を活用した決算審査～」(7/16～18)；稲沢克祐先生による3日間の演習を伴う集中研修。決算、バランスシート、行政評価と実践的な学び。

■全国政策研究集会inちば(8/8～9)；鼎談「新たな地域づくりと市民合意」熊谷俊人千葉市長、稲村和美尼崎市市長、福嶋浩彦中央学院大学教授(元我孫子市長)が刺激的だった。分科会は「教育委員会改革」と「在宅医療・介護の地域包括ケア」。



■国交省は、外環ジャンクション地域で、強制収用を可能にする土地収用法に基づく強制立入調査をすると発表。暴挙！



野村羊子といっしょにつくる三鷹の会news No.73  
 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-30-12-104  
 Tel&Fax:0422-72-2425  
 E-mail: issyonokai@nomura-yoko.net  
 Url: http://www.nomura-yoko.net  
 Twitter: https://twitter.com/#!/hitujinomura



## ■リニア現地視察ツアー（7/30～31）

リニア中央新幹線は、東京ー名古屋を40分で結ぶと言うが、今の成熟社会、速さにのみにどれだけの意味があるというのだろうか。環境にかかる負荷の大きさを思うとマイナスは計り知れないと実感したツアーだった。

さらに問題は財源と人手。JR東海の民間事業としながら、「全国新幹線鉄道整備法」に位置づけられたため、地元自治体は協力するしかない。駅や車両基地などの用地買収には行政職員があたるため、住民には公共事業としか映らない。しかし、決定権も意見を言う回路も地元にはない。これは東京外環道路と同じ構造。最初は高速道路(株)の民間事業としながら、いつの間にか薄皮まんじゅう方式（薄い皮が民間、あんこは国費）になった。



★「**神奈川県**」駅；相模原市の橋本駅前に設置。停車は1時間に1本。無人駅で、ホームと地上までの通路という駅の基本部分のみをJRが負担。あとは地元でという。駅は地元負担ではないとされたのに、これこそ薄皮まんじゅう。駅舎はない。橋本では在来線へのコンコースくらいは作る考えられているが、駅前再開発と絡んでどう対処するのか、まだ県も市も未定の様子。

相模川を渡った先の山間が**車両基地予定地**。両側の里山を崩し谷間を埋めて平らな土地を造成するという。もうそれだけで自然への冒瀆だと思う。そのため、何十世帯かが立ち退きを強いられる。矢面に立つには市の職員だ。

★**リニア実験線**；山梨県笛吹市の4月オープン山梨県立リニア見学センター。山梨県では実験線をそのまま本線として活用する。コンクリートのフードをかぶせたむき出しのトンネルが山から出てきて、谷を高架で横切る様子は異様だ。



トンネルによって地下水の流れが変わり、水量が増えた沢、枯れた沢、思わぬところで影響が出ているという。今はJR東海が代替策を講じているので、農家は無言だという。

★「**山梨県**」駅；田んぼの中が予定地。甲府駅からバスで数十分。バイパス道路をまたぐため高さ70mの高架になるとか。田んぼは実は浸水被

害警告地域のいわば沼地。そこに70mの高さに合わせたホームと駅舎を建てられるのか？と地元議員は問題提起。ここも1時間に1本停車の無人駅。JRは最低限の設備しか作らない。



地方空港の閑散としたロビー風景が思い起こされる。そそくさとシャトルバスや送迎車に乗る乗客。地元の経済には寄与しない。建設時に土木会社がちょっと潤おうだけ。騒音・振動・低周波そして電磁波の被害を高架からまき散らすリニアは、日に何本走るのか？環境破壊による被害対策、過剰投資の後始末等々、困難な課題が残されるばかりではないだろうか。

★**長野県下伊那郡大鹿村**；あの原田芳雄の遺作となった映画の舞台。歌舞伎を今も継承し続けている村。中央構造線に沿った谷間は北陸から駿河へ至る古道。その宿場町として文化が流れて続けていた場所。その村を今度はリニアが東西に分断する。

南アルプスを貫いてきたリニアが、ひょいと顔を出し、小渋川をまたいでまたすぐ山に潜り込む。村長は、「全てトンネルにしてほしい」と要望している。村の中央構造線博物館館長も周囲の山は崩れやすい地層が積み重なり、中を掘るのは危険だと言う。



村には**非常口**が数カ所できる。本来は工事搬入口。工期短縮のためここからもトンネルを掘る。工事用車両、資機材搬入、土砂搬出口となり、完成後は非常口となる。予定地は、山奥の急峻な崖を削ったような山道を辿った先の集落の谷間。トラックが日に何百台も通るとはとても思えない。



村のわずかな平地に**変電所**も造る予定。搬出土砂の**残土置場**も地元自治体に丸投げするJR東海。困難課題は税金依存なのに、民間事業だとして、議会や民意のチェックの対象外ということそのものが大きな問題だと感じた。